

第Ⅷ因子		273500			
factor8		担当部署			
		血液			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		空腹時静脈より採血し、気泡、溶血及び組織トロンボプラスチンの混入を防ぐ。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	全血	2 黒小	3.2%クエン酸 Na	1.8	mL
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) 凝固検体 3) 採血量過不足の検体 4) サンプリングできない検体			
保管検体の保存期間		室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）			
検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			

測定時間	当日中					
生物学的基準範囲	60～140% EX 共通 CL1141 : 「臨床検査法提要 改訂第 35 版」 429					
臨床判断値	設定なし					
基準値					単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
50	150	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因	身体運動により活性は上昇する。妊娠中は増加する。O 型の血液型の健常人は他の血液型に比べ有意に低く、低値の境界領域を示す。					
臨床的意義	<p>第Ⅷ因子は血友病 A 患者の欠乏因子である。血友病 A は X 染色体連鎖遺伝形式をとり、先天性凝固異常症の中で最も頻度が高く、出生男児 5000 人に 1 人の割合で発症する。血友病 A の重症度は血中第Ⅷ因子活性レベルにより 1%未満の重症型、1～5%の中等症型、5%以上の軽症型に分類される。臨床症状は主に関節内および軟部組織などの深部出血を特徴とするが、軽症型では自然出血は比較的少ない。一方、血友病 A の約 5%にほぼ正常量の第Ⅷ因子抗原が認められる病型があり cross-reacting material-positive と呼ばれる。これらは第Ⅷ因子蛋白の抗原量に見合った活性を持たず、質的異常を示す異常第Ⅷ因子である。</p> <p>EX 共通 CL1141 : 「臨床検査法提要 改訂第 35 版」 428-430</p>					